

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	倫理学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2	後期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関（病院）・教育機関（学校）における倫理的問題に関する各種委員会に従事した。 ・精神科医療施設・福祉施設における人権問題及び社会運動に長年関与した。 					
【一般教育目標（GIO）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場における対象者の人格の尊重について叙述することができる。 ・ホスピタリティマインドを持ち、対象者の人格、価値観を尊重し、QOLの向上やwell-beingを理解する。 ・倫理学的実践としての作業療法について理解する。人間の働きを「生の形式」と芸術作品から考察する。 						
【目標行動（SBOs）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・一人の生活者としての「人間の尊厳」について述べることができる。 ・倫理的問題と法的、診療的問題を区別することができる。 ・倫理的意志決定過程について説明できる。 ・事例を通じ、学生自身と異なる価値観についても、尊重することができる。 ・作業療法士協会倫理綱領/職業倫理指針について述べるすることができる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	8/25	倫理学的実践としての作業療法－WFOTの作業療法の定義と倫理綱領 モゼイの「作業療法の輪郭」における倫理学とアートの位置				
2	9/1	W&S作業療法 倫理的リーズニング 倫理的問題を認識する				
3	9/8	〃 人々と複数性－参加・分有の思考 リフレクションと自己理解				
4	9/15	〃 作業療法士の徳 ケアリング論				
5	9/22	〃 倫理的問題と他の問題との区別 リフレクションとマインドフルネス				
6	9/29	〃 倫理学的実践と倫理綱領				
7	10/6	〃 倫理的問題 ケーススタディ1				
8	10/13	〃 倫理的な意思決定の過程、道徳理論と倫理原則				
9	10/20	創造とアナキー 創造とアナキー 哲学・倫理学・美学				
10	10/27	〃 人間の働き－Artと倫理学				
11	11/3	〃 芸術作品の考古学				
12	1/19	〃 実習における倫理的問題				
13	1/26	〃 作業療法の前提としての「生の形式」				
14	2/2	〃 〃				
15	2/9	試験				
使用テキスト				参考テキスト		
プリント配布 授業の内容（プリント）は以下の2冊の本を底本としている。 ・W&S作業療法13th edの第36章 ・Agamben: Creation and Anarchy				・看護実践の倫理－倫理的意志決定のためのガイド ・いと高き貧しさ－修道院規則と生の形式 ・身体の使用－脱構成的可能態の理論のために		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
医学概論、リハビリテーション概論、作業療法概論など				地域作業療法学、作業療法評価学、作業療法治療学		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
試験(60%)、レポート(30%)、出席態度(10%)				試験：必須概念の理解、レポート：引用と思考の論述、出席態度：思考の表出		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	生活環境論	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年生	後期	必修	講義	8回(コマ)	15時間	1単位
科目担当教員	穴戸 真帆 遠藤 陵晃			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	病院、在宅医療の経験が5年以上					
【一般教育目標 (GIO)】 人間工学、運動学、福祉工学などを中心に、環境が人間に対して、どのように影響を与えるか考える。また、環境調整を講じて症例などのADL、IADL、QOLを理解する。						
【目標行動 (SBOs)】 ・環境が人間に与える影響要素を説明できる。 ・福祉用具、住環境について説明できる。 ・事例に対し住環境に応じた提案できる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	10/20	オリエンテーション、生活環境とは				
2	10/27	住環境の基礎知識				
3	11/3	福祉用具の基礎知識				
4	1/19	疾患別住環境検討（脳血管障害、関節リウマチ）				
5	1/26	疾患別住環境検討（脊髄損傷、パーキンソン病）				
6	1/30	疾患別住環境検討（難病疾患内部障害、聴覚・視覚障害）				
7	2/2	グループワーク				
8	2/9	定期テスト				
使用テキスト				参考テキスト		
ADL・実習 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト／責任編集：長尾 徹（神戸大学）／中山書店				福祉住環境コーディネーター検定試験1～3級／東京商工会議所、クリニカル作業療法シリーズ 福祉用具・住環境整備の作業療法／玉垣努／中央法規		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、運動学 リハビリテーション概論、作業療法概論、				高齢期の治療学、身体障害の治療学、 発達障害の治療学、臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業参加、態度、課題（10%）、定期試験結果（90%）				総合評価にて60点以上で合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	生涯発達論	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	加藤 智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクル論の基礎である生死をめぐる連続と不連続についての共同研究（参考テキスト参照） ・ジョーン M. エリクソンの著書『回復と成長をめざして』の訳者(小林)との勉強会とその応用的実践 ・ライフサイクル論（自己形成論）の教育学的背景についての研究 					
<p>【一般教育目標（GIO）】</p> <p>生涯発達論（ライフサイクル論）と作業療法の関連について理解する。 エリクソンの心理社会的発達（自我発達の8段階）について説明する。 生活歴と自己形成Bildungという視点から作業療法を捉え直す。</p>						
<p>【目標行動（SBOs）】</p> <p>作業療法の前提となる生涯発達論（ライフサイクル論）について理解する。 心理社会的な発達の基礎となる臨床心理学的な見方について理解する。 心理社会的な発達理論の作業療法への応用について理解する。 エリクソンの自我の発達の8段階について理解し、自分自身の生活歴との関連から理解を深めることができる。</p>						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	4/7	オリエンテーション、作業療法とライフサイクル論				
2	4/14	心理社会的な発達の基礎となる臨床心理学的な基礎概念（精神分析・葛藤・両極性）				
3	4/28	〃（自我の機能）				
4	5/12	ライフサイクル論と感覚・叡智・創造（J. M. Eriksonのアート論）				
5	5/19	〃				
6	5/26	自我の発達の8段階 乳児期				
7	6/2	自我の発達の8段階 幼児期				
8	6/9	自我の発達の8段階 学童期				
9	6/16	自我の発達の8段階 青年期とアイデンティティ				
10	6/23	自我の発達の8段階 成人期とgenerativity				
11	6/30	自我の発達の8段階 老年期				
12	7/7	作業療法への応用（回復・成長・活動とコミュニティ）				
13	7/14	〃				
14	7/21	〃				
15		試験				
使用テキスト				参考テキスト		
・「ライフサイクル、その完結」 E.H. エリクソン（著）, J.M. エリクソン（著）, みすず書房				・「〈死者/生者〉論—傾聴・鎮魂・翻訳—」 磯前 順一（編集）, ペリかん社 ・"Activity, Recovery, Growth: The Communal Role of Planned Activities" Joan M. Erikson（著）		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
作業療法概論, 臨床心理学, 社会学				倫理学, 基礎作業学理論		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
レポート課題(20%)、定期試験(80%)				60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	内科学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	古賀晋一郎			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	内科専門医・内科教育病院指導医で、大学・専門学校の内科学講義を担当している。					
【一般教育目標 (GIO)】						
・ 疾病統計から発症頻度が高いと知られている内部障害について、神経内科学, 精神医学と分担して学習する。生理学, 病理学, 外科学等と同時期に進め, 学習効果がより上がるようにする。各科目で扱われる内容のうち内科学の理解に必要なものは, 先取りして学習することにより, リハビリテーションが必要となる患者の全身症状をよりよく理解できるように指導する。						
【目標行動 (SBOs)】						
・ 内科学のあらましを, 各項目3分で, クラスメートと互いに説明しあうことができる。 ・ 常に更新される医療情報に接し, クラスメートと互いに修練を続ける習慣を身につけることができる。						
回数		授業計画または学習の主題				
1		救命救急の知識				
2		アレルギー疾患, 膠原病と類縁疾患, 免疫不全症				
3		感染症				
4		リハビリテーションに必要な栄養学				
5		内分泌疾患, 代謝性疾患				
6		腎・泌尿器疾患				
7		消化器疾患・肝胆膵疾患				
8		血液・造血器疾患, 中間試験				
9		症候学, 内科的診断と治療の実際☑				
10		腫瘍性疾患:がん				
11		呼吸器疾患1				
12		呼吸器疾患2				
13		循環器疾患1				
14		循環器疾患2				
15		定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
前田眞司(編), 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版, 医学書院, 2020年11月, 424ページ. ISBN-13: 978-4-260-04290-1.				1)井上 泰(編著), 疾病論 第2版-人間が病気になるということ -.医学書院, 2011年3月, 376ページ. ISBN-13: 978-4-260-01019-1. 2)渡辺照夫(編), カラーで学べる病理学 第5版-整理ノート付-. ノーヴェルヒロカワ, 2019年12月. 414ページ. ISBN-13: 978-4-861-74075-6.		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖生理学, 病理学				小児科学, 老年病学		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
出席(15点), レポート2回(20点), 発表演習1回(15点), 試験2回(50点)を合計し100点満点で評価し, 60点以上を合格とする。				締切日までに提出されたレポートは, あらかじめ公表するループリックで採点する。締切日以降に提出されたものは, 採点を行わない。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	整形外科学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	中澤 明尋			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	医師として病院に勤務					
<p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <p>急増している骨・関節に関連した運動器疾患の予防と治療について理解できる。 対象者のquality of life (QOL) に焦点を当てた全人的治療を目指す視点を理解できる。</p>						
<p>【目標行動 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨・軟骨・関節の構造、生化学、病態生理を説明できる。 ・診察の基本、検査（画像所見など含）、治療（保存療法、手術療法、薬物療法など含む）の概要を説明できる。 ・主要疾患の概要を説明できる。 ・関節の機能解剖、疾患について説明できる。 ・骨折と脱臼について説明できる。 ・全人的治療を目指すリハビリテーションの視点からQOLを高める治療を理解できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		診察法（症候の診察と検査）と治療法（保存療法よ手術療法）				
2		画像診断，検査法				
3		外傷性疾患				
4		スポーツ整形外科				
5		変形性関節症				
6		関節リウマチ				
7		上肢疾患（肩，肘，手関節，手部）				
8		下肢疾患（股，膝，足関節，足部）				
9		脊椎，脊髄疾患				
10		脊髄損傷と末梢神経損傷				
11		骨粗鬆症の治療と予防				
12		骨脆弱性骨折の治療				
13		骨・軟部腫瘍				
14		骨系統疾患				
15		試験				
使用テキスト				参考テキスト		
標準整形外科学 第13版/中村利孝 監修/医学書院、 図解整形外科 第3版/久保俊一 他/金芳堂				関節外科診療ファーストステップ/齋藤知行/南江堂		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学など				リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
定期試験（100%）				60点以上で単位取得とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	脳神経内科学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	集中	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	長谷川節			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	医科大学脳神経内科客員教授および公立総合病院にて院長職兼脳神経内科・リハビリテーション科部長として8年勤務、他					
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経内科学の概念を理解する。 ・脳神経内科学の代表的な疾患について理解し、リハビリテーションが円滑に行える基盤とする。 ・脳神経内科学とリハビリテーション医療について理解を深め、説明できる。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・神経学的診断(各種検査・画像所見などを含む)の意義と目的を理解できる。 ・神経症候学について説明できる。 ・脳血管障害/脳腫瘍/外傷性脳損傷/脊髄疾患など神経疾患の概念・症状・治療法(薬理を含む)などを列挙できる。 ・神経疾患患者に対してのリハビリテーションについて述べることができる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		脳神経内科総論-1(神経学的診察、評価、診断)				
2		脳神経内科総論-2(神経学的診察、評価、診断)				
3		脳神経内科総論-3(神経学的診察、評価、診断)				
4		脳神経内科総論-4(検査)、頭痛、てんかん、眩暈				
5		脳血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下・硬膜下・硬膜外出血を含む)				
6		脳腫瘍、脳外傷、奇形、髄液異常(正常圧水頭症、低髄圧症)				
7		小児神経(脳性麻痺、精神発達遅滞、2分脊椎、ダウン症など)				
8		変性疾患-1(パーキンソン病(DLBを含む)、パーキンソン症候群(MSAを含む))				
9		変性疾患-1(パーキンソン病(DLBを含む)、パーキンソン症候群(MSAを含む))				
10		変性疾患-2(脊髄小脳変性症(MSA以外)、ALSとその関連疾患)				
11		変性疾患-3(認知症(DLB以外))				
12		感染症(脳炎、脊髄炎、マブ病、神経梅毒、HIV感染症など)、脱髄疾患、膠原病とその関連疾患(サルコイドーシス、ベーチェットなど)				
13		脊髄疾患(脊髄血管障害を含む)、末梢神経疾患				
14		神経筋接合部疾患、ミオパチー				
15		定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版/川平和美/医学書院 ・および各講師のプリントを配布する 				<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドの神経の診かた 第18版/田崎義昭、斎藤佳雄、坂井文彦/南山堂 ・神経局在診断—その解剖、生理、臨床—第6版/花北順哉/文光堂 		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学など				リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
定期試験(100%)				総合評価で60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	精神医学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	通年	必修	講義	30回(コマ)	60時間	4単位
科目担当教員	山田 高裕			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	精神科医師					
<p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <p>・精神医学の概念を理解する。・精神障害の成因と分類を理解する。・精神機能の症状と精神症状を理解する。・脳科学からみた精神機能について理解できる。・精神障害の診断と評価を理解する。・主要精神疾患を理解する。・精神障害に対して用いられる主な治療法について理解する。</p>						
<p>【目標行動 (SBOs)】</p> <p>・精神障害の3つの成因を説明できる。・精神機能の種類、および精神症状について説明できる。 ・身体的検査法、心理検査法などの概要を説明できる。・精神障害の分類について説明できる。 ・精神医学的診察法について説明できる。・精神症状や社会生活、主観的QOLの評価法の概略について説明できる。 ・薬物療法、精神療法、社会的治療やリハビリテーションの概要について説明できる。 ・統合失調症、双極性障害および抑うつ障害群、神経症性障害、認知症などの概念・症状などを説明できる。</p>						
回数		授業計画または学習の主題		回数		授業計画または学習の主題
1		精神医学とは		16		正常心理発達
2		精神医学総論①		17		パーソナリティ障害
3		精神医学総論②		18		不安障害①
4		精神医学各論		19		不安障害②
5		統合失調症①		20		摂食障害
6		統合失調症②		21		心身症
7		気分障害①		22		児童精神医学①
8		気分障害②		23		児童精神医学②
9		認知症		24		薬物療法
10		てんかん		25		精神療法
11		アルコール依存症		26		検査
12		薬物依存症		27		精神医学と社会①
13		不眠症		28		精神医学と社会②
14		前期まとめ		29		後期まとめ
15		定期試験		30		定期試験
使用テキスト				参考テキスト		
現代臨床精神医学／大熊輝雄著／金原出版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、心理学、臨床心理学、病理学など				リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
定期試験 (90%)、授業内参加態度 (10%)				総合評価で60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	小児科学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	中澤美賀・杉山恵一郎			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	総合病院 小児科担当医として10年以上勤務					
【一般教育目標 (GIO)】						
医療従事者である作業療法士としてかかわる小児科疾患について知識を得、理解を深める。						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・小児の疾患について、その原因と特徴、対応について理解し、説明できる。 ・リハビリ対象児の抱える疾患や合併症を医学的検査や画像所見をもとに医学的に理解し、多(他)職種連携に必要な知識を得、説明することができる。 ・小児疾患の症状、医学的治療(薬理含む)、対象児へのリハビリテーションについて説明できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	4/11(火)	新生児・未熟児疾患				
2	4/19(水)	小児科概論				
3	4/25(火)	先天異常				
4	5/9(火)	神経筋・骨系統疾患(1)				
5	5/10(水)	呼吸器疾患				
6	5/17(水)	消化器疾患(1)				
7	5/23(火)	神経・骨系統疾患(2)				
8	5/31(水)	消化器疾患(2)、腎・泌尿器・生殖器疾患				
9	6/7(水)	血液疾患				
10	6/13(火)	循環器疾患				
11	6/13(火)	感染症				
12	6/21(水)	小児腫瘍性疾患・心身症				
13	7/5(水)	免疫・アレルギー・膠原病、まとめ				
14	7/11(火)	内分泌・代謝疾患				
15		定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎群や 小児科学 第5版/富田豊/医学書院						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学、生涯発達論、精神医学、教育学など				リハビリテーション医学、各評価学、各治療学、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
筆記試験(100%)				60点以上取得をもって単位認定とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床心理学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	深瀬裕子			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	医療機関・相談機関にて心理職として18年勤務					
<p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <p>主な心理療法と心理検査について学び、臨床心理学の代表的な理論と適切な検査方法を理解する。</p>						
<p>【目標行動 (SBOs)】</p> <p>主な心理療法の理論、心理検査の種類と実施方法について説明できる。</p>						
回数		授業計画または学習の主題				
1		心理学概論				
2		クライアント中心療法				
3		精神分析				
4		精神分析から派生した学派				
5		行動療法：条件づけ				
6		行動療法：社会的学習				
7		認知療法と認知行動療法				
8		その他の心理療法				
9		質問紙法による人格検査				
10		投映法による人格検査				
11		作業検査法による人格検査				
12		認知機能検査				
13		気分・状態の検査				
14		ふりかえり				
15		試験				
使用テキスト				参考テキスト		
プリントを配布します						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
試験の点数で評価します。ただし欠席が1/3を超える場合には試験を受けられません。				多肢選択式の試験とします。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	病理学概論	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	8回(コマ)	15時間	1単位
科目担当教員	古賀 晋一郎			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	臨床病理を活用し内科専門診療を行い,大学・専門学校で病理学講義を担当している。					
【一般教育目標 (GIO)】						
<p>・ 疾病統計から発症頻度が高いと知られている疾患について, 原因や発症過程, 病理診断と治療との関係を学習する. 生理学, 内科学, 外科学等と同時期に進め, 学習効果がより上がるようにする. 各科目で扱われる内容のうち臨床病理学の理解に必要なものは, 先取りして学習することにより, リハビリテーションが必要となる患者の全身症状をよりよく理解できるように指導する.</p>						
【目標行動 (SBOs)】						
<p>・ 臨床病理学のあらましを, 各項目3分で, クラスメートと互いに説明しあうことができる.</p> <p>・ 常に更新される医療情報に接し, クラスメートと互いに修練を続ける習慣を身につけることができる. <input checked="" type="checkbox"/></p>						
<input checked="" type="checkbox"/>						
回数		授業計画または学習の主題				
1		生命の危機, 循環障害				
2		免疫とアレルギー				
3		炎症, 感染症				
4		代謝異常				
5		内分泌系				
6		腎・尿路系, 生殖器・乳腺				
7		消化器系				
8		定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
渡辺照夫(編), カラーで学べる病理学 第5版, 整理ノート付. ヌーヴェルヒロカワ, 2019年12月, 414ページ. ISBN-13: 978-486-174075-6.				標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野, 医学書院. 1)横井豊治(監), 病理学 第5版. 2022年10月, 328ページ. ISBN-13: 978-4-260-04986-3. 2)前田眞司(編), 内科学 第4版. 2020年11月, 418ページ. ISBN-13: 978-4-260-04290-1.		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖生理学				内科学, 神経内科学, 小児科学, 老年病学		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
出席(10点), レポート2回(20点), 定期試験1回(20点)を合計し, 50点満点で評価する. 30点以上を合格と判定する.				締切日までに提出されたレポートは, あらかじめ公表するルーブリックに沿って採点する. 締切日に遅刻したレポートは, 採点を行わない.		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	公衆衛生学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	角田衣理加			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	大学にて教員職として13年勤務					
【一般教育目標 (GIO)】 公衆衛生学の理念を理解し、ライフサイクルを通じての健康の追求をする。						
【目標行動 (SBOs)】 ・健康の概念、環境と健康、生活・ライフスタイルと健康の関連、社会の動向と保健・医療・福祉制度、疫学について説明出来る。 ・保健医療統計、EBM、予防の概念、倫理規範と実践、保健医療における個人情報、感染について説明出来る。						
回数		授業計画または学習の主題				
1		公衆衛生学入門、保健統計				
2		疫学、環境保健				
3		母子保健、学校保健				
4		生活・ライフスタイルと健康				
5		生活習慣病、生活習慣に関連する政策				
6		高齢者保健、障害者福祉・精神保健				
7		産業保健				
8		根拠に基づいた医療、社会保障制度				
9		感染症・国際保健				
10		衛生学実習(疫学)				
11		衛生学実習(EBM)				
12		衛生学実習(感染対策)				
13		衛生学実習(環境保健)				
14		公衆衛生学 総復習				
15		定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
シンプル衛生公衆衛生学2023 鈴木庄亮監修/南江堂 (2月下旬発刊予定) 公衆衛生が見える 2022-2023 MEDIC MEDIA						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
医学概論、社会福祉学、統計学、内科学、小児科学、病理学概論など				各種治療学、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
定期試験90%、授業態度10%をもとに総合評価として60点以上を合格とする。				総合評価60点以上で合格。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	基礎作業学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	金山 桂			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として総合病院・介護老人保健施設等にて10年以上の臨床経験					
【一般教育目標 (GIO)】						
1 作業療法の基本である「作業」について理解する。						
2 作業を用いた「評価」と「治療」について理解する。						
作業療法の基本となる「作業」と「ひと」との関係について学ぶ						
【目標行動 (SBOs)】						
1 自分の体験をもとに、「作業をする」ことについて述べられる。						
2 作業分析について説明できる。						
3 作業の「知」について説明できる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		オリエンテーション 作業学とは				
2		作業療法と作業				
3		ひとの一生と作業				
4		作業の「知」について				
5		作業分析について				
6		環境と作業遂行について				
7						
8		作業学習と指導法について				
9		作業と「評価」について				
10						
11		個人作業と集団作業の特徴と効果				
12		作業と「治療」について				
13						
14						
15		試験				
使用テキスト				参考テキスト		
ひとと作業・作業活動 新版/山根寛/三輪書店				作業療法学ゴールドマスターテキスト作業学/長崎重信監修/メジカルビュー社		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
基礎作業学実習				基礎作業学理論 各領域の作業療法評価学および治療学		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
出席数・提出物・授業態度 (40%)				総合評価で60点以上とする		
試験 (60%)				試験だけでなく提出物や取り組みも評価する		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	基礎作業学理論	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の歴史に関する解釈学的研究 ・基礎作業学に関する研究と発表 ・人間作業モデルとカナダ作業療法モデルの実践への応用 					
【一般教育目標 (GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・「作業療法」における「作業」の概念について理解する。 ・作業に基づく実践としての作業療法を理解する。 ・人間作業モデル/カナダ作業療法モデルを理解して実践することが出来る。 						
【目標行動 (SBOs)】 <ul style="list-style-type: none"> ・「作業療法」における「作業」について説明できる。 ・人間作業モデル/人-環境-作業モデルについて説明できる。 ・COPMを用いた作業療法評価を体験する。 ・各モデルに基づいて症例の情報をまとめ、論述することが出来る。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	4/11	現代の作業療法の定義、作業の定義。作業療法の輪郭				
2	4/18	作業療法の哲学的基礎 古代養生法としての作業 ヒポクラテス, プラトン, アリストテレス				
3	4/25	作業療法の哲学的基礎 古代養生法としての作業 ガレン				
4	5/2	アドルマイアーの作業療法の哲学 —「使用」と「自然」—				
5	5/9	ライリーの作業行動理論				
6	5/16	エリクサの人文主義				
7	5/23	作業行動理論から人間作業モデルへ				
8	5/30	人間作業モデル総論				
9	6/6	人間作業モデルの実際				
10	6/13	カナダ作業療法モデル総論 (クライアント中心について)				
11	6/20	人-環境-作業モデルとカナダ作業遂行モデル				
12	6/27	作業の分類				
13	7/4	COPMの実際と作業療法評価				
14	7/11	各理論と事例検討				
15	7/18	試験				
使用テキスト				参考テキスト		
作業療法がわかる COPM・AMPSスターティングガイド / 吉川 ひろみ (著), 齋藤 さわ子 (著) / 医学書院				キールホフナーの人間作業モデル -理論と応用- 改訂第5版 Renée R. Taylor (著, 編集), 山田 孝 (翻訳)		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
作業療法概論、リハビリテーション概論、生涯発達論 基礎作業学実習				各領域の評価学、治療学		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
レポート (20%), 定期試験 (80%)				60点以上を単位認定とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	精神障害の評価学		
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数	
2年	前期	必修	講義	30回(コマ)	60時間	4単位	
科目担当教員	金山 桂			科目に関連する 実務経験の有無	有		
科目に関連する 教員背景	作業療法士として総合病院・介護老人保健施設等にて10年以上の臨床経験						
<p>【一般教育目標（GIO）】</p> <p>1 精神領域における作業療法の歴史を理解する。 2 精神領域における関係法規や作業療法の枠組みについて理解する。 3 精神領域における作業療法評価について理解する。 4 精神領域における作業療法評価と疾患特性の関係を理解する。 精神領域での作業療法の根拠となる「評価」の視点を学ぶ。</p>							
<p>【目標行動（SBOs）】</p> <p>1 精神領域における作業療法の歴史を説明できる。 2 精神領域における関係法規や作業療法の枠組みについて説明できる。 3 各疾患と特性にあわせた評価項目を意識しながら評価体験ができる。 4 評価体験を通じて、課題点と利点について抽出することができる。</p>							
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題	
1		オリエンテーション・評価とは		16		疾患の特性と評価の視点について 評価が導く作業課題・利点とは ～認知症・双極性障害・神経性障害～	
2				17			
3		精神領域における作業療法の歴史について		18			
4				19			
5		精神領域における作業療法の実際		20			
6				21			
7		精神領域における必要な関係法規		22			
8		精神領域における作業療法の枠組み		23			
9		観察を中心とした評価と記録		24			
10				25			
11				26			
12		観察以外の評価について		27			定期試験
13				28			
14		中間試験		29			定期試験振返り
15		中間試験振り返り		30			治療学にむけてまとめ
使用テキスト				参考テキスト			
<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学/長崎重信/メジカルビュー社 ・精神障害と作業療法 新版/山根寛/三輪書店 ・NewSimple Step精神科/岸本年史/総合医学社 ・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・現代臨床精神医学/大熊輝雄/金原出版 			
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目			
精神医学、心理学、臨床心理学、生涯発達論など				精神障害の治療学A/B、臨床実習			
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など			
中間試験・定期試験（60％） 出席数・提出物・授業態度（40％）				総合評価で60点以上とする 試験だけでなく提出物や取り組みも評価する			

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	発達障害の評価学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	前期	必修	講義	30回(コマ)	60時間	4単位
科目担当教員	笹田 哲			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として病院に勤務					
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> 発達障害領域の作業療法の流れについて説明できる。 発達障害領域における様々な職域やその役割について理解し、説明できる。 発達障害領域の対象児・者の理解と、障害像について説明できる。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> 発達障害領域の対象児・者について、臨床像と医学的治療を理解し、作業療法評価項目を挙げられる。 子どもの定型発達の知識を体得し、評価項目とつなげることができる。 発達障害領域で一般的な治療理論の基礎を理解し、説明することができる。 						
回数		授業計画または学習の主題		回数		授業計画または学習の主題
1		発達障害領域の作業療法の理念と目的		16		発達段階と評価 (幼児期の運動発達)
2		発達障害領域の作業療法の対象疾患		17		子どもの評価 (発達の観点からのまとめ)
3		対象疾患の理解 (行動障害)		18		子どもの評価 (活動分析の視点)
4		対象疾患の理解 (行動障害)		19		子どもの評価 (感覚統合の視点)
5		発達段階と評価 (発達を理解するということ)		20		子どもの評価 (感覚統合の視点)
6		発達段階と評価 (乳児期の身体的発達)		21		子どもの評価 (感覚統合の視点)
7		発達段階と評価 (乳児期の認知的発達)		22		子どもの評価 (認知機能の視点)
8		発達段階と評価 (幼児期の認知的発達)		23		子どもの評価 (認知機能の視点)
9		発達段階と評価 (子どもの情緒・社会的発達)		24		子どもの評価 (行為機能の視点)
10		発達段階と評価 (乳児反射の発達)		25		子どもの評価 (行為機能の視点)
11		対象疾患の理解 (運動障害)		26		子どもの評価実践 (臨床観察)
12		対象疾患の理解 (運動障害)		27		子どもの評価実践 (臨床観察)
13		対象疾患の理解 (運動障害)		28		子どもの評価実践 (JMAP, JAPAN)
14		発達段階と評価 (乳児期の運動発達)		29		子どもの評価実践 (発達検査)
15		発達段階と評価 (乳児期の運動発達)		30		定期試験
使用テキスト				参考テキスト		
PT・OTのための発達障害ガイド 新田収・編/金原出版				人間発達学第2版/岩崎清隆/医学書院 発達障害の作業療法基礎編第3版/岩崎清隆他/三輪書店 発達が気になる子どもを地域で支援! 保育・学校生活の作業療法サポートガイド/酒井康年編/メジカルビュー社		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
心理学 運動学 小児科学				生涯人間発達学、発達障害の作業療法治療学、臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
課題・レポート (30%) 授業参加態度 (20%) 定期試験 (50%) 総合で60%以上を合格とする。				必須課題: 対象疾患の「疾患の概要と定義、原因と機序、臨床像と予後、医学的治療と他職種支援」についてまとめたノート作成。疾患は少なくとも以下について取り上げること (脳性麻痺・知的障害・筋ジストロフィー・二分脊椎症・自閉スペクトラム症・学習症・注意欠如多動症・骨形成不全症・重症心身障害・内部障害) 尚、インターネットや他人のものをコピーし作成した場合は、不正行為とみなし採点対象にはしない。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	身体障害の作業療法治療学 A	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年生	後期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	名古屋 和茂 丸岡 ちひろ			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	病院で10年以上勤務					
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）の作業療法の指導・援助に必要な知識を理解できる。 ・ 脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）の原因と機序、治療原理や治療技法の原則を説明できる。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）における作業療法の考え・目的・流れなど基本的な考え、病態像・症状などを理解し説明できる。 ・ 脊髄損傷・切断および一般整形外科疾患（下肢を含む）の病態像・症状・作業療法介入について理解し、治療介入や訓練内容を立案し、説明できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	8/24	初回オリエンテーション/治療の流れ				
2	8/30	上肢骨折に対するアプローチ（評価～治療）				
3	9/13	下肢骨折に対するアプローチ（評価～治療）				
4	9/27	下肢骨折に対するアプローチ（治療）				
5	9/27	末梢神経障害に対するアプローチ（評価）				
6	10/11	末梢神経障害に対するアプローチ（治療）①				
7	10/11	末梢神経障害に対するアプローチ（治療）②				
8	10/19	切断に対するアプローチ（評価・治療）				
9	10/19	脊髄損傷に対するアプローチ（評価）				
10	10/26	脊髄損傷に対するアプローチ（治療）①				
11	10/26	脊髄損傷に対するアプローチ（治療）②				
12	1/24	頰椎症・腰椎症（評価～治療）				
13	1/31	屈筋腱断裂に対する評価および治療方法				
14	1/31	熱傷に対する評価および治療方法				
15	2/14	定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
長崎重信監修：身体障害作業療法学（作業療法学4 ゴールドマスターテキスト）メジカルビュー社、 石川齋 他編：図解作業療法技術ガイド 第3版、文光堂						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、整形外科学、リハビリテーション医学など				作業療法演習Ⅰ、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
小テスト（30%）、定期試験（60%）、 授業態度（10%）				総合評価で60%以上を合格とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	身体障害の作業療法治療学B	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年生	通年	必修	講義	60回(コマ)	120時間	8単位
科目担当教員	遠藤 陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	病院で10年以上勤務					
【一般教育目標 (GIO)】						
脳血管障害および脳外傷（以下、中枢疾患）を中心に発生機序や臨床症状を踏まえ、急性期～生活期の作業療法の理解を深める。						
症例の生活を理解し、作業遂行障害に対して、論理的に分析し、援助方法を理解、提示する。						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢疾患の発生機序、急性期～生活期の作業療法を説明できる。 ・ 中枢疾患の作業療法を他の関係職種とともに協調して行える。 ・ 関節リウマチ、内部障害（心疾患・呼吸器疾患・悪性腫瘍など）、神経難病における作業療法の考え・目的・流れなど基本的な考え、病態像・症状などを理解し説明できる。作業療法介入について理解し、介入や訓練内容を立案し、説明できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1～3		脳血管障害の総論（発生機序、病態像など）		31～34		関節リウマチの作業療法評価、治療
4		脳血管障害の障害像の理解（予後など）		35		呼吸器疾患に対する作業療法評価、治療①
5		脳血管障害の障害像の理解（病期など）		36		呼吸器疾患に対する作業療法評価、治療②
6		脳血管障害の作業療法評価（画像所見の読影など）		37		循環器疾患に対する作業療法評価、治療①
7		脳血管障害の作業療法評価（検査など）		38		循環器疾患に対する作業療法評価、治療②
8～9		脳血管障害の作業療法評価（評価立案、予後予測など）		39		代謝障害、糖尿病と作業療法評価、治療①
10		脳外傷の総論（発生機序、病態像など）		40		代謝障害、糖尿病と作業療法評価、治療②
11		脳外傷に対する作業療法		41		悪性腫瘍などに対する作業療法治療学①
12		中枢疾患に対する治療法総論		42		悪性腫瘍などに対する作業療法治療学②
13～19		中枢疾患に対する治療法・技術援助		43		神経難病に対する作業療法学総論
20～24		中枢疾患に対するADL・IADL訓練、指導法		44～48		神経難病に対する作業療法学総論
25～26		中枢疾患に対する治療法・技術援助①		49～50		高次脳機能障害に対する作業療法学総論
27～28		中枢疾患に対する治療法・技術援助②		51～57		高次脳機能障害に対する治療法・技術援助
29		その他の評価・まとめ		58		その他の評価・まとめ
30		定期試験		60		定期試験
使用テキスト				参考テキスト		
<small>身体障害作業療法学（ゴールドマスターテキスト）／長崎重信 監／メジカルビュー社、脳卒中最新線急性期の診断からリハビリテーションまで第4版／福井園彦他編／医歯薬出版、ADL・実習15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト、能登真一ほか編集：標準作業療法専門分野高次脳機能障害／医学書院</small>				<small>PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方／中島雅美他／医歯薬出版、リハビリテーションリスク管理ハンドブック第3版／亀田メディカルセンター編 くわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション／鹿島晴雄 編／永井書店、図解作業療法技術ガイド 第4版／石川齋 他編／文光堂</small>		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など				作業療法学演習Ⅰ、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業態度（10％）、課題提出（10％）、小テスト（20％）、試験（60％）				総合評価にて60点以上で合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	老年期の作業療法治療学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年生	前期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	遠藤 陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	病院などで老年期作業療法に5年以上の経験あり					
【一般教育目標 (GIO)】						
・高齢者のADL、QOLを支援するための作業療法の基礎的知識を身につけることができる。						
【目標行動 (SBOs)】						
・老年期障害に対する作業療法の特徴や基本的な視点について理解し、説明ができる。						
・認知症高齢者・虚弱高齢者・障害高齢者に対する作業療法の基本的な考え方や実践について理解し、説明ができる。						
・高齢者の生活やQOLを支援するための作業療法の基礎的知識を理解し、説明ができる。						
・各施設に求められている作業療法の介入方法を立案できる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	4/7	オリエンテーション				
2	4/14	心身機能・活動・参加支援：レクリエーションまたはアクティビティ導入計画				
3	4/28	高齢者障害の事例検討①				
4	4/28	高齢者障害の事例検討②				
5	5/12	高齢者障害の事例発表①				
6	5/12	高齢者障害の事例発表②				
7	6/2	高齢者の個別、集団のレクリエーション・アクティビティ計画作成				
8	6/2	病院や施設からの退院支援について				
9	6/9	高齢者の生活体験				
10	6/16	高齢者の生活体験について発表				
11	6/23	複合疾患の作業療法				
12	6/30	高齢者障害の生活への工夫（自助具など利用）				
13	7/7	グループワーク、課題発表				
14	7/14	高齢者の生活障害についてのアプローチ				
15	7/21	定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
老年期の作業療法 改訂第3版／鎌倉矩子 他編／三輪書店 図解 作業療法技術ガイド /石川齋 他編／文光堂						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など				作業療法演習Ⅰ、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業参加態度（10％）、課題（10％）、グループ課題（10％）、定期試験結果（70％）				総合評価で60％以上を合格とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	発達障害の作業療法治療学A	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	後期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	笹田 哲			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として病院に勤務					
【一般教育目標 (GIO)】 ・発達障害領域の対象児・者とその社会的背景について理解し、評価と介入法を考察することができる。 ・発達障害領域の理念を理解し、対象児・者やその家族に対応するための人間的な資質を理解する。						
【目標行動 (SBOs)】 ・対象児・者で対象となる子どもの生活について、評価項目を選択し、評価内容について分析し、支援の手立てを理解することができる ・対象児・者の評価結果を解釈し、治療内容や経過について分析したことを理解し、議論につなげることができる						
回数		授業計画または学習の主題				
1		発達領域の支援の場と作業療法士の役割				
2		食事の評価と援助（摂食機能の発達と分析）				
3		食事の評価と援助（摂食機能障害の評価と援助）				
4		疾患別作業療法の実際（知的障害）				
5		疾患別作業療法の実際（知的障害）				
6		当事者家族からの視点				
7		更衣の評価と援助（更衣動作の発達と分析）				
8		更衣の評価と援助（更衣動作の評価と援助）				
9		疾患別作業療法の実際（自閉スペクトラム症）				
10		疾患別作業療法の実際（自閉スペクトラム症）				
11		排泄行為の評価と援助（排泄機能の発達と分析）				
12		排泄行為の評価と援助（排泄行為の評価と援助）				
13		他職種連携の実際（肢体不自由児）				
14		他職種連携の実際（肢体不自由児）				
15		後期定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
PT・OTのための発達障害ガイド 新田収・編／金原出版				発達障害の作業療法基礎編第3版/岩崎清隆他/三輪書店		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
発達障害の評価学				発達障害の治療学B、臨床実習、作業療法学研究A		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業参加態度（20%）課題・小テスト（30%） 定期試験（50%）				総合60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	発達障害の作業療法治療学B	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年	後期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	南谷 祐子			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	療育センター（作業療法士）・養護学校（自立活動教諭）として30年以上勤務					
<p>【一般教育目標（GIO）】</p> <p>・発達過程に障害を持つ対象児・者とその社会的背景から、どのような支援があるのかを理解し、支援法について考察することができる。・様々な領域の作業療法士の役割を理解し、発達障害児・者への生涯に渡る支援法を考察し、議論できる。</p>						
<p>【目標行動（SBOs）】</p> <p>・発達障害領域で対象となる子どもの臨床像から、作業療法介入の目的について考察することができる。・対象児・者の社会背景を踏まえ、作業療法士の役割と他職種連携について考察し考えを述べるができる。</p>						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		福祉分野での作業療法士の役割				
2		福祉・教育分野での作業療法士の役割				
3		教育分野での作業療法士の役割				
4		特別支援学校体験実習事前指導				
5	10/12	特別支援学校体験学習				
6	10/12	特別支援学校体験学習				
7	10/12	特別支援学校体験学習				
8	10/12	特別支援学校体験学習				
9	10/19	特別支援学校体験学習				
10	10/19	特別支援学校体験学習				
11	10/19	特別支援学校体験学習				
12	10/19	特別支援学校体験学習				
13		特別支援学校体験実習事後指導・発表				
14		特別支援学校体験実習事後指導・発表				
15		特別支援学校体験実習事後指導・発表				
使用テキスト				参考テキスト		
インクルーシブ教育時代の特別支援教育入門/萌文書林 地域作業療法学/医学書院				発達障害の作業療法基礎編第3版/岩崎清隆他/三輪書店 標準作業療法学 発達過程作業療法学/加藤寿宏/医学書院 感覚統合/石井孝弘/学苑社		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
発達障害の評価学 治療学A				作業療法治療学演習Ⅱ、臨床実習、作業療法学研究A		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業参加態度（30%） レポート（20%）				総合60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	精神障害の作業療法治療学A	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年	後期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	金山 桂			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として総合病院・介護老人保健施設等にて10年以上の臨床経験					
【一般教育目標 (GIO)】						
1 精神領域における作業療法の「治療」的実践方法と作業療法過程を理解できる。 精神領域の評価学を踏まえ、治療として作業療法を展開するための基礎を学ぶ						
【目標行動 (SBOs)】						
1 精神領域における作業療法の治療過程と具体的な実践方法について説明できる。 2 各疾患における回復過程に沿った作業療法とその目的を説明できる。 3 各疾患における作業療法の治療プログラムを立案できる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		精神領域における作業療法の治療要素について				
2		集団の構造と治療的利用				
3		疾患の特性と治療の視点について 目標設定と治療プログラム立案について ～統合失調症・アルコール障害・摂食障害～				
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14		定期試験				
15		定期試験の振り返りとまとめ				
使用テキスト				参考テキスト		
・ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学/長崎重信/メジカルビュー社 ・精神障害と作業療法 新版/山根寛/三輪書店 ・NewSimple Step精神科/岸本年史/総合医学社 ・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院				・現代臨床精神医学/大熊輝雄/金原出版		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
精神医学、心理学、臨床心理学、生涯発達論、精神障害評価学など				精神障害の治療学B/演習II、臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
中間試験・定期試験(60%) 出席数・提出物・授業態度(40%)				総合評価で60点以上とする 試験だけでなく提出物や取り組みも評価する		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	精神障害の作業療法治療学B	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年	通年	必修	講義	45回(コマ)	90時間	6単位
科目担当教員	奥原孝幸			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	精神科病院での精神科作業療法・精神科デイケア勤務、就労支援事業所への関わり					
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・精神科作業療法の実践方法について理解する。 ・疾患ごとの実践方法の枠組みを理解し、事例に対し必要となる評価や治療計画を立てることができる。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ICFモデルの活用について説明できる。 ・事例における作業療法の治療・支援について説明できる。 ・各疾患および回復過程における作業療法の実践について説明できる。 ・事例に対する作業療法の治療や支援の実践について考察できる。 ・事例検討を通じ、作業療法介入目的・方法・再評価などを系統だてて立案できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1～9		疾患別の作業療法の実際を学ぶ 統合失調症		24～29		疾患別の作業療法の実際を学ぶ 認知症
				30		前期定期試験
10～15		疾患別の作業療法の実際を学ぶ 神経症		31～32		精神障害者の生活に必要なサービスの理解
				16		中間テスト
17～23		疾患別の作業療法の実際を学ぶ 気分障害			45	
使用テキスト				参考テキスト		
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害と作業療法 新版／山根寛／三輪書店 ・精神疾患の理解と精神科作業療法／堀田英樹／中央法規 ・現代臨床精神医学／大熊輝雄／金原出版 New Simple Step 精神科／岸本年史／総合医学社 精神科の薬がわかる本／姫井照男／医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学 6 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学 /長崎重信／メジカルビュー社 ・標準作業療法学 精神機能作業療法学第3版／新宮尚人／医学書院 ・生活を支援する精神障害作業療法 第2版／香山明美他／医歯薬出版 		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
精神障害評価学、精神障害の治療学A				治療学演習Ⅱ、臨床実習Ⅲ		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
定期試験（50％）、課題（25％）、授業参加姿勢（25％）				各課題60点以上、定期試験60点以上を合格基準とし、中間試験は定期試験の結果の参考として成績判定します。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法治療学演習Ⅰ	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年生	通年	必修	演習	30回	60時間	4単位
科目担当教員	遠藤 陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	病院で10年以上勤務					
【一般教育目標（GIO）】						
<ul style="list-style-type: none"> 臨床医学および作業療法治療学を基盤とし、対象者へ具体的な身障系作業療法介入の一連の流れを立案できる。 身障系作業療法介入において、必要となる評価技法/治療技法などを実施できる。 						
【目標行動（SBOs）】						
<ul style="list-style-type: none"> 模擬患者に対して、障害像に合わせた評価を実施・測定することができる。 診療記録など記録物へ指定の記録方法で記載することができる。 事例検討を通じ、作業療法介入目的・方法・考察・目標設定・再評価などを系統だてて立案できる。 各種制度などを理解し、チーム医療/他職種連携/地域包括ケアシステムなどを踏まえて作業療法の一連の介入過程を立案できる。 臨床現場で行われている介入方法（吸引など含む）を体験および説明できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1		オリエンテーション		16		作業療法の評価～考察までの復習①
2		スプリント作成体験①		17		作業療法の評価～考察までの復習②
3		スプリント作成体験②		18		症例検討課題①
4		生活行為向上マネジメント（MTDLP）について①		19		症例検討課題②
5		生活行為向上マネジメント（MTDLP）について②		20		症例検討課題③
6		症例に対しての記録の書き方		21		症例検討課題④
7		作業療法の問題点・利点までの復習①		22		嚥下・吸引に対する理解
8		作業療法の問題点・利点までの復習②		23		起居動作についてのアプローチ
9		ADLの作業分析・動作分析①		24		ADL・IADLアプローチ検討①
10		ADLの作業分析・動作分析①		25		ADL・IADLアプローチ検討②
11		評価技法の実技①		26		臨床におけるアプローチ：訓練道具の作成①
12		評価技法の実技②		27		臨床におけるアプローチ：訓練道具の作成②
13		物理療法に対する理解		28		臨床におけるアプローチ：在宅医療①
14		臨床におけるアプローチ：反復促進法		29		臨床におけるアプローチ：在宅医療②
15		定期試験		30		定期試験
使用テキスト				参考テキスト		
一般社団法人日本作業療法士協会：作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント改訂第3版。 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版				15レクチャーシリーズ「運動学」／石川朗ほか／中山書店 15レクチャーシリーズ「運動学実習」／石川朗／中山書店		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学、各身体障害の評価学、神経内科学、リハビリテーション医学など				作業療法演習Ⅰ、各臨床実習など		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
授業態度（10%）、課題提出（30%）、試験（60%）				総合評価にて60点以上で合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法治療学演習Ⅱ	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年	後期	必修	演習	15回(コマ)	30時間	1単位
科目担当教員	金山 桂			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として総合病院・介護老人保健施設等にて10年以上の臨床経験					
【一般教育目標 (GIO)】						
1 事例に対して必要となる評価や治療プログラムを考える。						
2 疾患特性や個人因子を踏まえた作業療法の流れを体験する。						
講義で学んだ知識や考え方を踏まえて、症例に対して自分なりに評価や治療プログラムを考える。						
【目標行動 (SBOs)】						
1 事例の疾患特性や個人因子を踏まえた評価立案が行える。						
2 評価立案に基づいた評価を通して事例の作業課題と利点について列挙できる。						
3 作業課題と利点を踏まえた作業療法目標と治療プログラムを立案できる。						
4 テーマに基づいた一貫性のある報告ができる。						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		オリエンテーション 事例紹介				
2		高齢期における作業療法に関する事例検討				
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14		発表				
15		振り返りとまとめ				
使用テキスト				参考テキスト		
配布資料				・ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学/長崎重信/メジカルビュー社 ・精神障害と作業療法 新版/山根寛/三輪書店 ・NewSimple Step精神科/岸本年史/総合医学社 ・精神科の薬がわかる本/姫井照男/医学書院		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
精神医学、心理学、臨床心理学、生涯発達論、精神障害評価学、精神障害治療学A/Bなど				臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
出席数・授業態度 (30%)				総合評価で60点以上とする		
提出物 (50%) 発表時の態度 (20%)				自身の考えが一貫性をもっているかをポイントとする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法治療学演習 II	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3	前期	必修	演習	15回(コマ)	30時間	1単位
科目担当教員	古見智弘			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	作業療法士として精神科病院で8年、地域の就労系福祉サービスにて8年の臨床経験有					
【一般教育目標 (GIO)】 ・臨床医学および作業療法治療学を基盤とし、対象者へ具体的な精神障害領域作業療法介入の一連の流れを立案することができる。 ・事例または模擬患者に対して必要となる評価や治療計画が立てられるようになる。 ・事例を通して作業療法評価と治療・指導・援助内容の理解を深めることができる						
【目標行動 (SBOs)】 ・模擬患者に対して、適切に評価を実施・測定することができる。 ・事例検討を通じ、作業療法介入目的・方法・再評価などを系統だてて立案できる。 ・チーム医療の模擬的場面を通じ、作業療法士の役割や目的を明確に意見することができる。						
回数	授業計画または学習の主題					
1	オリエンテーション					
2	精神科作業療法の進め方					
3	作業を知る (作業分析)					
4	作業を知る (作業分析)					
5	治療としての作業活動					
6	障害者雇用の現状					
7	双極性障害を呈した50代男性に対する作業療法評価					
8	双極性障害を呈した50代男性に対する作業療法評価					
9	働く意味とは					
10	統合失調症を呈した40代女性に対する作業療法評価					
11	統合失調症を呈した40代女性に対する作業療法評価					
12	症例発表					
13	症例発表					
14	振り返り					
15	振り返り					
使用テキスト				参考テキスト		
主に配布資料等を用います。				精神障害と作業療法新版：山根寛（三輪書店）		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
精神医学、心理学、各評価学、各治療学等				総合臨床実習Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
レポート（授業参加態度含む）、発表等により評価。				レポートおよび発表等で6割以上とします。		

講義の流れにより、変更することがあります。

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法学研究 A	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4年生	集中	必修	演習	90回(コマ)	180時間	6単位
科目担当教員	遠藤 陵晃 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	医療施設で勤務経験をしながら学会などの研究発表の経験がある					
<p>【一般教育目標 (GIO)】</p> <p>作業療法研究を実施し、課題解決のための問題点の抽出、研究計画、実施の一連の過程を理解できる。また、研究論文などの作成と公表の方法を実践できる。</p>						
<p>【目標行動 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な研究方法の知識をもち、文献・統計資料等を読み、支援を受けながら成果を解釈できる。 ・ 症例報告やケーススタディ等の研究を、指導を受けながら、計画・実施できる。 ・ 実施した研究の成果等を文章化およびプレゼンテーション資料を作成し公表することができる。 						
回数	授業計画または学習の主題					
1～11	臨床実習Ⅲの事例振り					
10～23	事例検討（教科書、先行文献などから事例の振り返り）					
24～	事例検討（問題点・利点の再抽出、再考察、目標設定）					
38～	臨床実習Ⅲのレジユメの再作成・発表練習					
50～	研究疑問、研究テーマの決定、研究計画の立案					
58～	研究実施					
72～	論文作成					
84～	論文完成・レジユメ作成・発表練習					
使用テキスト				参考テキスト		
学生のレジユメ、配布プリント				標準作業療法学 専門分野 作業療法研究法第2版／山田孝 他／医学書院 この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本／石黒圭／日本実業出版		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
作業療法評価学・治療学、専門基礎系科目、セミナー・臨床実習				総合臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
提出書類内容(ワークシート・最終提出物):50%				総合評価 A・B・C (60点以上) ⇒ 合格 総合評価 D (60点未満) ⇒ 不合格		
受講態度(締切厳守、個人・グループワーク):20%						
発表態度(中間発表会・卒業研究発表会):30%						

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	作業療法学研究 B	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4	後期	必修	演習	30回(コマ)	60時間	2単位
科目担当教員	加藤 智也・南谷 祐子			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する教員 背景	・他校の国試対策、模擬試験問題の作成等の業務に関与した。					
【一般教育目標 (GIO)】						
国家試験合格に必要な基礎医学・臨床医学・障害別作業療法学などの知識を再確認し強化する。						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の達成目標を設定し、そのための具体的学習方法やスケジュールを設定できる。 ・少人数ゼミ形式で、各自の役割に沿って、自主的に学習を進めることができる。 ・模擬試験において、国家試験合格を目指せる得点を取ることができる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1	9/19	オリエンテーション、単元別小テスト①		21,22	1/9	学内模試⑤
2,3	9/26	医歯薬模試①		23	1/16	小テスト⑪
4	10/3	小テスト②		24,25	1/18	医歯薬模試③
5	10/10	小テスト③		26,27	1/23	学内模試⑥
6	10/17	小テスト④		28	1/25	小テスト⑫
7	10/24	小テスト⑤		29,30	1/30	学内模試⑦
8,9	10/31	学内模試②			2/5	学内模試 (再試験)
10	11/7	小テスト⑥				
11	11/14	小テスト⑦				
12	11/21	小テスト⑧				
13,14	11/28	学内模試③				
15	12/5	小テスト⑨				
16,17	12/12	医歯薬模試②				
18	12/19	小テスト⑩				
19,20	12/26	学内模試④				
使用テキスト				参考テキスト		
①クエスチョンバンク 作業療法士国家試験問題解説専門問題2024版/医療情報科学研究所 編/メディックメディア				①PT/OT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学2024/医歯薬出版		
②クエスチョンバンク 理学療法士作業療法士国家試験問題解説共通問題2024版/医療情報科学研究所 編/メディックメディア				②PT/OT国家試験必修ポイント 基礎OT学2024/医歯薬出版		
③PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2024/医歯薬出版				③PT・OT国家試験共通問題 できるもん・でたもん 一問一答!! 2019/医学書院		
④PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2024/医歯薬出版				④OT国家試験専門問題 できるもん・でたもん 一問一答!! 2022/医学書院		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
解剖学、生理学、運動学および各疾患学、各評価学、各治療学、臨床実習						
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
模擬試験 (50%) ,確認テスト (50%)				最終期三回の模擬試験結果および確認テストの結果の総合が合格点 (60%以上の正答率) に達成すること。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	地域作業療法学	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年生	後期	必修	講義	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	遠藤 陵晃			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	在宅医療や地域支援事業等の経験が5年以上					
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域作業療法を理解するために地域の捉え方、地域リハビリテーション、実践過程における評価の視点までの枠組みを理解する。 ・対象者および障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識を習得できる。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・わが国における社会保障制度の枠組みを説明できる。 ・多(他)職種の業務と役割、連携の必要性を説明できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	8/23	オリエンテーション 地域という概念に関して				
2	8/30	地域を調べる				
3	9/6	介護保険制度について				
4	9/13	社会保障制度など制度や施策について①				
5	9/20	地域について発表				
6	9/20	地域について発表と補足				
7	9/27	社会保障制度など制度や施策について②				
8	10/4	地域包括ケアシステムとは				
9	10/11	地域共生社会とは				
10	10/18	多・他職種連携について				
11	10/25	病期と作業療法				
12	1/16	グループワーク				
13	1/24	発表と補足				
14	1/31	まとめ				
15	2/7	定期試験				
使用テキスト				参考テキスト		
標準作業療法学 専門分野 地域作業療法学 第3版/大熊明・加藤朋子 編/医学書院				職業リハビリテーション学 改訂第2版/松為信雄・菊池恵美子 編/協同医学出版社、精神科リハビリテーション・ケースブック/野田文隆他/医学書院 地域リハビリテーション学第2版/重森健太・横井賀津志 編/羊土社		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
社会福祉学、リハビリテーション概論、作業療法概論、リハビリテーション体育身体障害の評価学、精神障害の評価学、発達障害の評価学				老年期の治療学および各領域の治療学、地域作業療法演習、作業療法管理学、臨床実習		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
定期試験結果(80%)、授業態度・参加(10%) 課題提出物等(10%)				総合評価で60%以上を合格とする		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2	集中	必修	実習	1回	315時間	7単位
科目担当教員	遠藤陵晃・加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員としての実務経験 ・臨床作業療法の実務、病院・施設での実習指導者としての実務経験 					
【一般教育目標（GIO）】 <ul style="list-style-type: none"> ・職業人としての常識的態度及び専門職としての責任ある行動を身につける。 ・実習指導者が実施する作業療法を学ぶ。 ・見学－模倣－実施という段階を経る中で作業療法技術を習得する。 ・実習指導者が実施する作業療法の臨床的思考を学ぶ。 						
【目標行動（SBOs）】 <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーを受講し実習に向けて模擬患者を通じてレディネスを高め自己の実習課題について述べることができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として倫理観を学習し、行動できる。 ・専門職、職業人（OT学生）としての適切な人間関係に参加する。 ・実際の事例を通して、観察・面接・検査などを経験する。 ・作業療法評価計画を立てることができる。 ・臨地実習後、事例を通して学んだ内容について再検討をしてみとめ、発表することができる。 ・臨地実習後、他の学生の学んだ内容について情報共有できる。 						
日程	授業計画または学習の主題					
11/06-11/10	プレセミナー5日間					
11/13-12/01	評価実習1期					
12/04-12/22	評価実習2期					
12/25-12/28	ポストセミナー4日間					
使用テキスト				参考テキスト		
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック、誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のためのSOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社、初版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅰ、各領域の作業療法評価学				臨床実習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
①プレセミナー＋ポストセミナーの出席 ②臨地実習の出席 ①②共に85%以上の出席が単位取得の最低条件です。				プレセミナー（事前書類の提出含む）20%、臨地実習40%、ポストセミナー（事後書類の提出含む）30%、連絡事項10%。1期・2期の平均が60%以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床実習Ⅲ（総合臨床実習）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3	集中	必修	実習	1回	405時間	9単位
科目担当教員	遠藤陵晃・加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員としての実務経験 ・臨床作業療法の実務、病院・施設での実習指導者としての実務経験 					
【一般教育目標（GIO）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養う。 ・作業療法評価・治療について見学一模倣一実施を段階的に経験して作業療法技術を習得する。 ・実習指導者が実施する事例に対する臨床思考過程及び実践能力を学ぶ。 						
【目標行動（SBOs）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べる ことができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。 ・作業療法評価を計画・実施し、対象者の生活機能と障害について検討できる。 ・作業療法計画を立案し、その計画に沿って作業療法を実施する。 ・再評価を適切に実施し、作業療法計画を修正できる。 ・チームの一員として連携の方法を習得し、専門職としての責任と自覚を身につける。 ・臨地実習後のポストセミナーにおいて、事例を通じて学んだ内容について再検討してまとめ、発表することが できる。 ・ポストセミナーにおいて、事例について互いに討論できる。 ・ポストセミナーにおいて、他の学生の学んだ内容について情報共有できる。 						
日程	授業計画または学習の主題					
1/04-1/06	プレセミナー3日間					
1/08-3/01	臨地実習					
3/04-3/07	ポストセミナー4日間					
使用テキスト				参考テキスト		
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習 ガイドブック、誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療 社、初版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅱ、各領域の作業療法治療学				臨床実習Ⅳ、Ⅴ、研究A		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
①プレセミナー+ポストセミナーの出席 ②臨地実習 ①②共に85%以上の出席が単位取得の最低条件。				プレセミナー（事前書類の提出含む）15%、臨地実習 50%、ポストセミナー（事後書類の提出含む）25%、 連絡事項10%。60%以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床実習Ⅳ（総合臨床実習）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4	集中	必修	実習	1回	405時間	9単位
科目担当教員	遠藤陵晃・加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する教 員背景	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員としての実務経験 ・臨床作業療法の実務、病院・施設での実習指導者としての実務経験 					
【一般教育目標（GIO）】 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力を養う。 ・作業療法評価・治療について見学一模倣一実施を段階的に経験して作業療法技術を習得する。 ・実習指導者が実施する事例に対する臨床思考過程及び実践能力を学ぶ。 						
【目標行動（SBOs）】 <ul style="list-style-type: none"> ・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べる ことができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。 ・作業療法評価を計画・実施し、対象者の生活機能と障害について検討できる。 ・作業療法計画を立案し、その計画に沿って作業療法を実施する。 ・再評価を適切に実施し、作業療法計画を修正できる。 ・チームの一員として連携の方法を習得し、専門職としての責任と自覚を身につける。 ・臨地実習後のポストセミナーにおいて、事例を通じて学んだ内容について再検討してまとめ、発表することが できる。 ・ポストセミナーにおいて、事例について互いに討論できる。 ・ポストセミナーにおいて、他の学生の学んだ内容について情報共有できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1	5/29-6/2	プレセミナー5日間				
2	6/5-7/28	臨地実習				
3	7/31-8/4	ポストセミナー4日間				
使用テキスト		参考テキスト				
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習 ガイドブック、誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社、 初版						
この授業の基礎となる科目		この授業を基礎とした科目				
臨床実習Ⅱ、各領域の作業療法治療学		臨床実習Ⅳ、Ⅴ、研究A				
単位認定の方法及び基準		試験やレポートの評価基準など				
①プレセミナー+ポストセミナーの出席②臨地実習		プレセミナー（事前書類の提出含む）15%、臨地実習				

授 業 概 要

①②共に85%以上の出席が単位取得の最低条件です。

50%、ポストセミナー（事後書類の提出含む）25%、
連絡事項10%。60%以上を合格とする。

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	臨床実習Ⅴ（地域実習）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4	集中	必修	実習	1回	45時間	1単位
科目担当教員	遠藤陵晃・加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する教員 背景	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員としての実務経験 ・臨床作業療法の実務、病院・施設での実習指導者としての実務経験 					
【一般教育目標（GIO）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の生活、文化、環境等、地域特性の実際を捉えることができる。 ・地域リハビリテーション関連施設（訪問リハ／通所リハ施設等）の役割について、体験を通し学ぶ。 ・地域作業療法を支える制度について理解し、作業療法士の役割を実習指導者から学ぶ。 ・地域リハビリテーション関連施設の課題について理解する。 						
【目標行動（SBOs）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・プレセミナーを受講し、実習に向けて模擬患者を通じて、レディネスを高め、自己の実習課題について述べる ことができる。 ・専門職、職業人（OT学生）として、望ましい態度や行動をとることができる。 ・専門職、職業人（OT学生）としての適切な人間関係に参加する。 ・地域で生活する事例について、観察・面接などの評価を経験する。 ・地域生活環境について評価し、必要な支援について説明または実施することができる。 ・臨地実習後のポストセミナーにおいて、臨地で学んだ内容について発表できる。 ・ポストセミナーにおいて、他の学生の学んだ内容について情報共有できる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1		プレセミナー(総合実習Ⅳのプレセミナーの内容に含む)				
2	8/21-8/25	臨床実習Ⅴ①(①～④の日程のうち1週間)				
3	8/28-9/1	臨床実習Ⅴ②				
4	9/4-9/9	臨床実習Ⅴ③				
5	9/11-9/15	臨床実習Ⅴ④				
6	9/18	ポストセミナー1日				
使用テキスト				参考テキスト		
京極真・鈴木憲雄他：作業療法士・理学療法士臨床実習ガイドブック。誠信書房 岡村祐聡著：POSを活用するすべての医療者のためのSOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社。初版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅳ				研究B		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
①ポストセミナーの出席（プレセミナーは臨床実習Ⅳに含まれるため、Ⅴの単位認定からは除く）②臨地実習 ①②共に85%以上の出席が単位取得の最低条件です。				プレセミナー（事前書類の提出含む）10%、臨地実習60%、ポストセミナー（事後書類の提出含む）20%、連絡事項10%。60%以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	セミナー	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
2年生	通年	必修	講義	30回(コマ)	60時間	4単位
科目担当教員	遠藤 陵晃・山下忠司 他			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景						
【一般教育目標 (GIO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士に求められる態度・知識・技術について理解できる ・総合臨床実習に向けて職業人としての基本的な行動がとれるようになる。 ・作業療法研究の基礎を学び自身の研究材料を選び取れるようになる。 						
【目標行動 (SBOs)】 <ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の書き方や観察の視点を学び実践できる。 ・報告や連絡、確認、相談など日々練習を行い、その必要性を説明できるようになる。 ・横浜YMCAの活動、イベントの実施などに参加をし、社会問題と課題について考え、解決能力を養うなる。 ・研究の方法を学び、各自材料の収集を練習し、テーマ選択が導けるようになる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1	4/13	自己紹介/YMCA理解と富士山一泊研修について		16	8/24	後期オリエンテーション
2	4/19	富士山研修準備		17	未定	実習準備
3	未定	スタディスキルズ・トレーニング/①自己紹介・自己分析		18	9/7	実習準備
4	5/11	仕事について知ろう。メールの出し方・書き方		19	9/14	プレゼンテーション資料を作成しよう
5	5/18	キャリアデザインを考えよう		20	9/21	プレゼンテーション資料発表
6	5/25	4年生研究発表参加		21	9/28	チャリティーラン準備
7	5/25	学校のリスクやトラブルについて考えよう		22	10/5	実習準備、実習個人資料の作成と修正
8	6/1	アクティブラーニングをやってみよう		23	10/12	実習準備
9	6/8	実習で求められる基本的態度、管理運営		24	10/19	実習準備
10	6/15	図解で考えよう、図解や表の使い方		25	10/26	コミュニケーション技能
11	6/22	議論の方法を知ろう		26	11/1	実習準備
12	6/29	レジュメを作成してみよう		27	1/18	ビジネス文書の作成してみよう
13	7/6	レポートの文章の特徴を知ろう		28	1/25	履歴書を作成してみよう
14	7/13	レポート作成トレーニング		29	2/1	就職活動面接の対策をしてみよう
15	7/20	発表の資料を作ろう		30	2/8	面接演習・フィードバック
使用テキスト				参考テキスト		
スタディスキル・トレーニング改訂版/吉原恵子他/実教出版 PT・OT臨床実習ガイドブック/京極真、鈴木憲雄/誠信書房 岡村 祐聡著：POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社、初版						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅰ セミナー (1年)				臨床実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、作業療法学研究A セミナー3年		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
出席態度 (20%)、講義課題 (50%) 横浜YMCA学イベント活動への参加状況と取り組み(30%) <small>※富士山一泊研修及びチャリティーラン、クリスマス礼拝、ウエルカムフェスタ、募金活動、その他ボランティア活動など)</small>				総合評価で60点以上を合格とする。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	セミナー 3年生	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
3年生	通年	必修	講義	30回(コマ)	60時間	4単位
科目担当教員	遠藤 陵晃			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景						
【一般教育目標 (GIO)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・総合臨床実習に向けて職業人としての基本的な行動がとれるようになる。 ・作業療法研究の基礎を学び自身の研究のテーマや材料を選び取れるようになる。 						
【目標行動 (SBOs)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録の書き方や観察の視点を学び実践できる。 ・報告や連絡、確認、相談など日々練習を行い、その必要性を説明できるようになる。 ・学習計画を立案し、主体的に時間管理ができるようになる。 ・研究の方法を学び、各自材料の収集を練習し、テーマ選択が導けるようになる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題		回数	日程	授業計画または学習の主題
1	4/11	オリエンテーション (富士山研修含み)		16	8/22	後期オリエンテーション
2	4/18	学習および自己課題計画、富士山研修準備		17	8/29	実習準備
3	4/27	4年生研究発表参加①		18	9/5	実習準備
4	4/27	4年生研究発表参加②		19	9/12	レポート作成トレーニング
5	5/9	レポートと文献の基本		20	9/18	4年生地域実習セミナーに参加
6	5/25	4年生研究発表参加③		21	9/26	ウエルカムフェスタ準備
7	5/25	4年生研究発表参加④		22	10/3	実習準備
8	5/30	実習における管理運営		23	10/10	実習準備
9	6/6	実習で求められる基本的態度		24	10/17	国家試験模擬試験
10	6/13	デイリー・ケースノートの書き方		25	10/24	2年生評価実習前アドバイス
11	6/20	コミュニケーション技能		26	10/31	実習準備
12	6/27	図解や表の使い方		27	11/7	実習準備、実習個人資料の作成と修正1
13	7/4	ディスカッションの目的		28	11/14	実習準備、実習個人資料の作成と修正2
14	7/11	感染対策について		29	11/21	ウエルカムフェスタ準備
15	7/18	前期のまとめ (前期定期試験)		30	12/7	年間の振り返り (後期定期試験)
使用テキスト				参考テキスト		
スタディスキル・トレーニング改訂版/吉原恵子他/実教出版 PT・OT臨床実習ガイドブック/京極真、鈴木憲雄/誠信書房 岡村 祐聡著: POSを活用するすべての医療者のための SOAPパーフェクト・トレーニング Part2.診断と治療社, 初版				学生のレポート・論文作成トレーニング/桑田てるみ/実教出版		
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
臨床実習Ⅰ・Ⅱ セミナー (1、2年)				臨床実習Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、作業療法学研究A セミナー4年		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
参加態度 (20%)、課題 (40%)、定期試験 (40%)				課題及び定期試験60点以上を基準とした総合的判断により単位取得とします。		

授 業 概 要

課程	医療専門課程	学科	作業療法科	科目名	セミナー（4年生）	
学年	学期	履修	授業形態	授業回数	授業時間数	単位数
4	前期	必修	演習	15回(コマ)	30時間	2単位
科目担当教員	加藤智也			科目に関連する 実務経験の有無	有	
科目に関連する 教員背景	前年度のセミナー（縦割り班活動）の企画・実施。					
【一般教育目標（GIO）】 <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティマインドを持った作業療法士になるために、社会人としての基礎力を身につける。 ・地域・文化活動において他者に配慮し、労わることができる。 ・自分の能力を他の人と比較して、自分の社会的位置を把握する。 ・個々学生自身の目標に向かい自分の時間を組み立てる。 						
【目標行動（SBOs）】 <ul style="list-style-type: none"> ・実習や就職活動、国家試験対策など1年間のスケジュールを自分で立て、それに沿って行動できる。 ・計画を立て、試行し、計画を修正して実行することを繰り返すことができる。 ・地域文化活動の意味を他者と共有し自発的に参加することができる。 ・同級生や後輩を指導することができる。 						
回数	日程	授業計画または学習の主題				
1,2	4/10	勉強会（自習, グループ学習）				
3,4	4/17	〃				
5,6	4/24	〃				
7,8	5/1	〃				
9,10	5/8	〃				
11,12	5/15	学内3科目模試				
13,14, 15	5/22	学内模試①				
使用テキスト				参考テキスト		
プリント配布						
この授業の基礎となる科目				この授業を基礎とした科目		
1・2・3年生セミナー等				就職活動、研究B(国試対策)		
単位認定の方法及び基準				試験やレポートの評価基準など		
<ul style="list-style-type: none"> ・班活動への参加・取り組み度(50%) ・レポート(30%) ・模試の結果(20%) 				左記比率による総合評価で60点以上を合格とする。		